

大学生の社会的態度と社会意識*

久世敏雄	後藤宗理 ¹⁾	浅野敬子 ²⁾
宮沢秀次 ³⁾	二宮克美 ⁴⁾	大野久 ⁵⁾
宗方比佐子 ⁶⁾	内山伊知郎 ⁶⁾	和田実 ⁷⁾
	鄭曉齊 ⁷⁾	

I. 問題

現代の青年が社会に対してどのような見方, 考え方をもっているかを明らかにするために, 社会的態度についての調査研究が, 中学生・高校生を対象とした縦断的研究と大学生を対象とした横断的研究という計画によって実施された。それらの研究においては, 社会的態度を保守的の態度, 革新的の態度, 大衆社会的の態度という3つの側面から捉えることとし, 中学生, 高校生, 大学生がどのような社会的態度を形成していくのか, また形成した態度を変容していくのかを検討することにした(久世・速水, 1974; 後藤・久世・宮沢・二宮, 1979; 久世・浅野・後藤・二宮・宮沢・宗方・大野・内山, 1985; Kuze, Goto, Ninomiya, Asano, Miyazawa, Munekata, Ohno, and Uchiyama, 1985)。その結果, 中学生・高校生を対象とした縦断的研究からは3つの社会的態度得点の中では革新的の態度得点が高いこと, 3つの態度間相関をみると, 保守的の態度と革新的の態度との間および革新的の態度と大衆社会的の態度との間には負の相関が, 保守的の態度と大衆社会的の態度との間には正の相関が認められること, さらに学年が上がるにつれて大衆社会的の態度が強くなることなどが明らかにされた(Kuze, et

al., 1985)。一方, 大学生を対象とした横断的研究(後藤ほか, 1979)からは, 中学生・高校生の場合と同じように, 3つの社会的態度得点の中では革新的の態度得点が高いこと, 3つの態度間相関をみると, 保守的の態度と革新的の態度との間および革新的の態度と大衆社会的の態度との間には負の相関が, 保守的の態度と大衆社会的の態度との間には正の相関が認められること, が示された。そしてさらに, 国立4年制大学の男女学生に比べると私立4年制大学の男女学生の方が保守的の傾向が強く革新的の傾向が弱いこと, 私立4年制大学の女子学生では大衆社会的の傾向も強いことなども明らかにされた。

ところで, これらの研究で用いられてきた保守的の態度, 革新的の態度, 大衆社会的の態度という3つの態度の枠組みは, 1960年代の基本的な軸であることから, 1970年代の青年を対象としたこれらの研究では, 因子分析によって態度構造を検討することも行われた。中学生・高校生を対象とした縦断的研究については, 村上(Murakami, T., 1983)の準3相主成分分析法にもとづいて因子構造の検討が行われた(Kuze, et al., 1985)。その結果, 4因子が抽出され, それぞれ「仲間への同調性」の因子, 「全体主義 対 個人の自由」の因子, 「政治的無関心」の因子, 「伝統的価値観」の因子と命名された。そして, この4因子の因子構造が中学生から高校生にかけての6年間を通じて安定していることが示された。

一方, 大学生を対象とした横断的研究については, 因子分析の結果, 4因子が抽出され, それぞれ, 「政治的無関心」の因子, 「保守的の態度」の因子, 「大衆社会的同調傾向」の因子, 「革新的の態度」の因子と命名された(後藤ほか, 1979)。そして, 因子分析の結果から, 保守的の態度, 革新的の態度, 大衆社会的の態度という基本的な態度の枠組みについて検討を加えることの必要性が指摘された。

とくに, これらの分析を通じて, 青年の社会的態度を

* 本研究のための計算は, 名古屋大学大型計算機センターFACOM M-382によった。

- 1) 名古屋市立保育短期大学助教授
- 2) 中京女子大学家政学部助教授
- 3) 名古屋経済大学経済学部助教授
- 4) 愛知学院大学教養部助教授
- 5) 新潟青陵女子短期大学助教授
- 6) 名古屋大学大学院教育学研究科研究生
- 7) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程(後期課程)

考える場合に、時代や社会の状況の変化を無視できないことが指摘された。このような時代や社会の状況の変化を考えると、社会的態度の研究は、2つの方向へ進むことが考えられる。1つは時間を置いて再調査することであり、もう1つは新しい視点から現代の青年が社会に対してどのような見方をしているのかを検討することである。第1の方向として大学生に再調査することが計画された。その分析が本研究の第1の目的となる。第2の方向については、すでに久世・宗方・和田・後藤・浅野・宮沢・二宮・大野・内山・鄭（1986）の論文にみる事ができる。

久世ほか（1986）は、現代青年の社会意識を私生活へのコミットメント（私生活主義）と規範意識という2つの視点から分析することにし、それぞれ家庭、学校、労働、人生観という4つの領域について質問文を収集して質問紙を作成した。ここで私生活へのコミットメントは、社会とのかかわりに消極的であり、自分自身のことや身近な生活への関与や関心が強まっていく傾向によって特徴づけられる。一方、規範意識とは、伝統や習慣の尊重、上下関係の重視、規則の遵守など社会規範に対する意識である。はじめに作成された118の質問項目は、繰り返し検討され、最終的には、50項目からなる質問紙にまとめられた。そして、因子分析と下位尺度間の平均値の比較および相関係数による検討から、私生活へのコミットメントと規範意識という枠組みが、現代青年の社会意識を研究する上で有効であることが示された。しかし、さらに理論的な検討を加えて、測定尺度を洗練化することが必要であると思われた。

このような議論を経て、久世・宮沢・二宮・和田・後藤・浅野・宗方・大野・内山・鄭（1987）は、現代青年の社会意識を私生活主義と規範意識とからとらえる目的で48項目からなる測定尺度を作成し、高校生、大学生に実施した。私生活主義とは、「私」の生活と利益を重視しようとする生活の構えをさす。操作的には、自分自身や身近な事象への関心、それとは逆の社会的な事象への無関心、さらには自分の感覚や実感の重視、自分の欲求と利益の重視などをさしている。また、規範意識とは、家庭や学校、社会における対人関係などにおいて、多くの者によって共有されている伝統的・慣習的な言動についての基準および規則や習慣などに対する意識である。

得られた資料について因子分析をした結果、3因子が抽出され、それぞれ「規範意識」、「身近な事象への関心・社会的な事象への無関心」、「自分の感覚や実感の重視」と命名された。このうち、規範意識の因子には、先生や親といった目上の人に対する尊重や学校を中心とした社会的ルールの遵守などの内容の項目が含まれていた。身近

な事象への関心・社会的な事象への無関心の因子には、自己と他者との関係や社会との関係の持ち方に関する項目が含まれていた。さらに、自分の感覚や実感の重視の因子には、個人を尊重し、判断や行動の基準を自分自身に求めようとする態度に関わる内容の項目が含まれていた。この3つの因子のうち、後の2つの因子が私生活主義に対応すると考えられた。

本研究は、2つの目的をもって行われる。すなわち、第1に、従来の社会的態度の質問紙を用いて、現在の大学生がどのような社会的態度をもっているのかを検討する。そこでは、因子構造の検討が行われるとともに、態度尺度の平均値と尺度間相関のパターンが、男女間あるいは大学の種別間で比較される。第2の目的は、社会的態度の枠組みと社会意識の3つの下位尺度との関係について検討することである。具体的には両者の下位尺度の相互関係が、男女別、大学の種別に求められた相関パターンによって吟味される。

II 方 法

1 被調査者と調査実施時期

被調査者は、愛知県下の国公立の4年制大学および短期大学に在学する1、2年生921名（男性437名、女性484名）である。大学別の内訳は表1に示したとおりである。表中、N大学は国立4年制大学、A大学は私立4年制大学、S大学は私立4年制女子大学、H大学は公立短期大学である。

調査は1986年12月中旬から1987年1月下旬にかけて実施された。

表1 被調査者数

大 学 と 性 別		人 数
全 体		9 2 1
国 立 大 学	N 男	1 2 6
	N 女	1 2 3
私 立 大 学	A 男	3 1 1
	S 女	1 8 8
短 大	H 女	1 7 3

2 社会的態度に関する質問紙

社会的態度に関する質問紙は、久世・速水（1974）が中学生・高校生用に作成した質問紙の修正版を用いた。質問項目は保守的態度項目、革新的態度項目、大衆社会的態度項目として作られたそれぞれ13ずつ合計39項目である。それぞれの項目内容は、表2に示したとおりである。

表2 社会的態度の因子分析の結果

項 目	因 子	I	II	III	h ²
1. 国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい。		.389	-.340	.169	.295
4. 女が政治などに口だしすべきでない。		.479	-.216	.148	.298
7. 結婚は家柄を重んじなければならない。		.155	-.412	.188	.229
10. 伝統や習慣は尊重すべきである。		-.158	-.047	.422	.205
13. 世間をわたるには義理や人情が最も大切である。		.181	.054	.476	.262
16. 長男が家をつぐのは当然だ。		.242	-.174	.373	.228
19. 親孝行は子どもの義務である。		.011	.093	.486	.245
22. 目上の人にはもっと敬語を使った方がよい。		-.006	.015	.443	.197
25. 学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである。		-.071	-.380	.313	.247
28. 世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない。		.182	-.060	.359	.166
31. 日本は天皇を中心にまとまるべきである。		.166	-.375	.322	.272
34. デモやストでさわぐのは民主国家の恥である。		.357	-.415	.165	.327
37. 家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい。		.309	-.178	.416	.300
2. 個人の自由は尊重すべきである。		.012	.385	-.035	.150
5. 正しいことであれば世間体など気にすべきでない。		-.155	.354	-.053	.152
8. いくら恩義のある人でも筋道の通らない頼みごとは断わった方がよい。		-.040	.295	.046	.091
11. 社会のために正しいことであるなら親の反対をおしきっても行動すべきである。		-.056	.405	-.115	.180
14. いくら伝統だからといっても不合理なことはやめるべきである。		.045	.347	-.097	.132
17. デモやストをするのは労働者の当然の権利である。		-.165	.437	-.113	.231
20. 先輩の意見でも、まちがっていると思えば、納得できるまで議論する。		-.145	.347	.101	.152
23. 男女の交際は全く自由であり、まわりの人がとやかく言うべきでない。		.282	.418	.070	.259
26. 政治をよくするためには、もっと進歩的な人から多くの代議士を選出すべきである。		-.014	.375	.021	.141
29. 家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである。		-.234	.125	-.120	.085
32. 「方角が悪い」などということはまったく信用しない。		-.045	.161	-.275	.104
35. 結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい。		-.046	.277	-.236	.135
38. 家庭では子どもの意見も大人の意見と同等に尊重されるべきである。		-.017	.213	.017	.046
3. 流行語などはよく知らないはずかしい。		.328	.034	.217	.156
6. 労働者や大学生のストライキやデモ活動などは関心がない。		.399	-.164	.018	.186
9. みんなが見ているテレビ番組を見ていないと、とりのこされる気がする。		.296	-.064	.252	.155
12. 国の法律が望ましいものかどうかを考える必要はない。		.451	-.425	.076	.390
15. 高校や大学時代には政治の問題を考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい。		.660	-.058	.070	.444
18. 理論よりフィーリングやムードが大切である。		.437	.080	.188	.233
21. 誰が衆議院の選挙で当選しようと日本の政治はかわらないと思う。		.287	.045	-.038	.086
24. 今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい。		.194	-.097	.351	.170
27. 共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする。		.268	.006	-.239	.129
30. ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどろだ。		.495	-.184	-.047	.281
33. いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない。		.369	.059	.080	.146
36. 皆と同じような持物や服装をしていないとひけめを感じる。		.210	-.160	.139	.089
39. 公害問題は被害者と加害者だけの問題である。		.391	-.318	-.112	.267
2 乗 和 (%)		2.982 (7.65)	2.702 (6.93)	2.175 (5.58)	7.860 (20.15)

表3 社会意識質問紙の項目内容

第Ⅰ尺度（規範意識）

2. 先輩と後輩との上下関係はいつも守らなければならない。
4. 授業中は、授業に関係のないことをしてはいけない。
6. 親や先輩など目上の人の意見には従った方がよい。
8. 遅刻や欠席をしないことは大切なことである。
10. 家庭では、父親がすべての実権を握るのが望ましい。
12. 服装や髪型などについて校則で細かく決めるのは当然だ。
14. 子どもは、親のいうことにさからうのはよくない。
16. 先生の言うことにはさからわない方がよい。
18. 長男が家をつぐのは当然だ。
20. 先生には、いつも敬語を使わなければならない。
22. 子どもは、親を尊敬すべきだ。
24. たとえ自分の考えと合わなくても、学校の規則は守らなければならない。
26. まじめに勉強することは最も大切なことである。
30. 日本の伝統や習慣は尊重すべきである。
41. この世の中では、義理やしきたりを重んずるのが最も大切である。

第Ⅱ尺度（身近な事象への関心・社会的事象への無関心）

1. 働くことや勉強することは最小限にして、自由な生活を楽しみたい。
5. 生徒会や（学生）自治会の活動を真剣にすると自分の損になる。
15. 自分ひとりが努力しても世の中はよくならない。
23. ボランティア活動や奉仕活動などに興味や関心はない。
29. 他人のために時間をとられたくない。
33. 自分のことに精一杯で、他人のことを考えるだけの余裕はない。
37. 戦争や飢餓など日常生活と関係のない問題は忘れがちである。
39. 結局、人のことは自分とは関係のないことだ。
42. 自分が損をしてまで、皆のためにつくすのはバカげたことだ。

第Ⅲ尺度（自分の感覚や実感の重視）

3. 自分で納得のいかないことはしたくない。
9. 趣味を持たずに生きるのはつまらない。
11. いつでも自分の気持ちに素直に行動すべきだ。
13. だまっていると損をするような場合は、必ず発言する。
19. 何事も自分でやってみなければわからない。
21. 自分のプライバシーは侵されたくないし、人のプライバシーも侵したくない。
34. 他の人に指図されたからではなく、自分の意志で行動することが大切だ。
40. 自分の気持ちをいつわって行動するのはいやだ。
46. 何事も自分で確かめるまでは信用できない。
47. 個人の自由は尊重すべきである。

その他（因子分析の結果により除外された項目）

7. 今の世の中では、個人の意見を政治や社会に反映させることはほとんど不可能である。
17. 自分の家庭や家族の幸福が最大の生きがいだ。
25. 毎日毎日を、自分の好きなように暮らしたい。
27. 理屈よりもフィーリングが大切だ。
28. 自分の考えと合わなければ、親の言うことでも従う必要はない。
31. 学校の行事には積極的に参加しなければならない。
32. 子どもは親孝行をすべきである。
35. 気に入らないことがあれば、学校を休んでもかまわない。
36. 自分の生き方や考え方について、人とやかくいわれるのはいやだ。
38. 社会のしきたりや習慣にとらわれた生活はいやだ。
43. 日本の政治を良くするために、選挙の投票を大切にすべきだ。
44. 社会の規則やルールにとらわれずに、自由に暮らしたい。
45. 一番楽しいのは、自分のことをしているときだ。
48. 今の世の中では、平凡な家庭のなかにささやかな幸福を求めた方がよい。

る。表中、項目番号1, 4, 7, 10, 13, 16, 19, 22, 25, 28, 31, 34, 37は保守的態度項目, 2, 5, 8, 11, 14, 17, 20, 23, 26, 29, 32, 35, 38は革新的態度項目, 3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30, 33, 36, 39は大衆社会的態度項目として作成されている。被調査者は、39の質問項目に対して、非常に賛成(5点), 賛成(4点), 賛成とも反対ともいえない(3点), 反対(2点), 非常に反対(1点)の5点評定法によって回答を求められた。なお、結果の整理にあたっては、態度ごとに合計得点を求め、項目数(13)で除した値を個人の態度得点とした。

3 社会意識に関する質問紙

社会意識に関する調査は、久世ほか(1987)によって作成された社会意識質問紙によって行われた。具体的には、社会意識の対象となる領域として家庭、学校、人生観の3つを取り上げ、それぞれの領域を考慮しながら、規範意識項目については20項目、私生活主義項目については28項目の合計48項目が質問項目として用いられた。具体的な項目は、表3に示した。

被調査者は、各項目に対して、非常に賛成(5点), 賛成(4点), 賛成とも反対ともいえない(3点), 反対(2点), 非常に反対(1点)の5点評定法によって回答を求められた。

なお、結果の整理にあたっては、久世ほか(1987)で、高校1, 2年生841名(男子377名, 女子464名)を対象とする調査資料を用いて行った因子分析の結果から構成された尺度が用いられた。高校生調査による因子分析では、3因子が抽出され、それぞれ「規範意識」, 「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」, 「自分の感覚や実感の重視」と命名された。本研究ではこの結果にもとづいて、「規範意識」は15の項目によって(項目番号2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 30, 41), 「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」は9つの項目によって(項目番号1, 5, 15, 23, 29, 33, 37, 39, 42), また「自分の感覚や実感の重視」は10項目によって構成された(項目番号3, 9, 11, 13, 19, 21, 34, 40, 46, 47)。なお、本研究で得られた資料にもとづく各尺度の信頼性係数は、それぞれ.78, .74, .75であった。

これら3つの下位尺度についてそれぞれの尺度得点が個人別に求められ、分析に用いられた。

Ⅲ. 結果と考察

1 社会的態度尺度の因子分析と尺度構成

社会的態度の39項目について因子構造を検討するため

表4 社会的態度の下位尺度の α 係数

態度	保守的	革新的	大衆社会的
全体	.730	.639	.699
国立	.776	.740	.768
私立	.600	.553	.634
男性	.720	.654	.695
女性	.753	.635	.705
N 男	.786	.766	.769
N 女	.771	.716	.771
A 男	.565	.562	.602
S 女	.675	.566	.682
H 女	.719	.580	.651

に、主因子法(正規バリマックス回転)による因子分析を行ったところ、表2に示したように、3因子が抽出された。表から明らかなように、第1因子だけに負荷量の高い項目は、3, 4, 6, 15, 18, 30, 33である。これらの項目の大半は、われわれが当初設定した大衆社会的態度項目に属しており、第1因子は「大衆社会的態度」因子と考えられた。

第2因子だけに負荷量の高い項目は、7, 2, 5, 11, 14, 17, 20, 23, 26である。これらの項目の多くは、当初の枠組みでいう革新的態度項目に属しているので、第2因子は「革新的態度」因子と考えられた。

第3因子は、10, 13, 16, 19, 22, 28, 37, 24での負荷量が高い。これらの多くは、当初の枠組みでは保守的態度項目に含まれている。そこで、第3因子は、「保守的態度」因子と考えられた。

このように、抽出された3つの因子はいずれも、われわれが当初設定した3つの態度の枠組みに対応していることが明らかになったので、39項目すべてを用いて3つの態度尺度を構成することにした。

つぎに、3つの態度尺度の信頼性を検討するために、標準化された α 係数を求めた。その結果を表4に示した。

表から明らかなように、被調査者全体の結果によれば、 α 係数は、.639から.730の範囲の値をとっており、信頼できる尺度が構成されたと考えられた。

α 係数を下位グループ別にみると、表4から明らかなように、国立の方が私立よりも、女性の方が男性よりも、そして大学別ではN男, N女が他の大学グループよりも α 係数が高い傾向にあった。

2 社会的態度尺度の尺度平均値と態度間相関

(1) 尺度平均値の結果の概要

まず表5にしたがって、尺度平均値の結果をみてみる。

表5 社会的態度の合成得点の平均値と標準偏差 ()内は標準偏差

態度	保守的		革新的		大衆社会的	
全体	2.70	(0.39)	3.66	(0.34)	2.83	(0.39)
国立	2.45	(0.41)	3.79	(0.38)	2.68	(0.44)
私立	2.82	(0.34)	3.61	(0.31)	2.92	(0.37)
男性	2.70	(0.40)	3.67	(0.36)	2.86	(0.42)
女性	2.69	(0.39)	3.65	(0.32)	2.81	(0.37)
N男	2.43	(0.44)	3.78	(0.42)	2.67	(0.47)
N女	2.46	(0.37)	3.80	(0.34)	2.69	(0.41)
A男	2.81	(0.33)	3.62	(0.32)	2.94	(0.37)
S女	2.84	(0.35)	3.60	(0.30)	2.87	(0.36)
H女	2.70	(0.35)	3.60	(0.28)	2.82	(0.32)

表6 下位検定の結果(社会的態度)

組合わせ	保守的	革新的	大衆社会的
N男-N女			
N男-A男	*** N男 < A男	*** N男 > A男	*** N男 < A男
N男-S女	*** N男 < S女	*** N男 > S女	*** N男 < S女
N男-H女	*** N男 < H女	*** N男 > H女	** N男 < H女
N女-A男	*** N女 < A男	*** N女 > A男	*** N女 < A男
N女-S女	*** N女 < S女	*** N女 > S女	*** N女 < S女
N女-H女	*** N女 < H女	*** N女 > H女	** N女 < H女
A男-S女			
A男-H女	*** A男 > H女		*** A男 > H女
S女-H女	*** S女 > H女		

注) 表中 *印は $p < .05$, **印は $p < .01$, ***印は $p < .001$ であることを示す。*, **, ***印については以下の表においても同じである。

表から明らかなように、被調査者全体の結果によれば、革新的態度の平均値が最も高く、ついで大衆社会的態度の値が高く、保守的の態度の値が最も低くなっている。こうした傾向は、大学種別、性別にみた結果、さらには5つの下位グループの結果においても認められている。

(2) 尺度平均値の大学種別、性別間比較

各尺度の平均値を大学種別、性別で比較するために下位検定を行った。その結果を示したものが、表6である。

表から明らかなように、保守的の態度については、N男とN女の間およびA男とS女の間を除くすべての組合せにおいて0.1%水準で有意な差がみられた。表5から明らかなように、A男とS女の平均値がN男、N女、H女のそれよりも高く、保守的傾向が強い。またH女はN男、N女よりも平均値が高く、保守的傾向が強い。革新的態度についての結果を表6にもとづいてみる。表から明らかなように、N男およびN女とA男、S女、H女との間

に0.1%水準で平均値の有意な差がみられた。そして表5から明らかなように、N男およびN女の平均値は他の3つのグループよりも高く、N男、N女での革新的傾向が強いことが示された。さいごに、大衆社会的態度についてみてみよう。表6から明らかなようにN男とN女との間、A男とS女およびS女とH女との間を除くすべての組合せにおいて、0.1%ないしは1%水準で平均値の有意な差がみられた。そして表5から明らかなように、A男の平均値はN男、N女、H女の平均値よりも、またS女とH女の平均値はN男、N女よりも高いことがわかる。つまり、A男、S女、H女の方がN男、N女よりも大衆社会的傾向が強いといえる。

以上の結果をまとめてみると、3つの態度のすべてについてA男、S女の平均値とN男、N女の平均値との間に有意な差がみられた。そしてA男、S女ではN男、N女よりも保守的傾向と大衆社会的傾向が強いこと、N男、

表7 社会的態度の下位尺度間相関

態度	保守的— 革新的	保守的— 大衆社会的	革新的 大衆社会的
全体	-0.42***	0.45***	-0.24***
男性	-0.40***	0.47***	-0.26***
女性	-0.44***	0.44***	-0.23***
N男	-0.57***	0.51***	-0.42***
N女	-0.49***	0.42***	-0.31**
A男	-0.19**	0.32***	-0.07
S女	-0.37***	0.39***	-0.13
H女	-0.31***	0.40***	-0.13

N女ではA男、S女よりも革新的傾向が強いことがわかる。また、H女はこの両者の中間に位置している。なお、A男、S女は私立の4年制大学の学生であり、N男、N女が国立の4年制大学の学生であることから大学の種別によって社会的態度の傾向に差がみられるといえる。

(3) 態度間相関について

3つの社会的態度の相互関係を調べるために、態度間相関を求めた結果が表7である。

被調査者全体の結果によれば、保守的態度と革新的態度との間および革新的態度と大衆社会態度との間には有意な負の相関が、また保守的態度と大衆社会的態度との間には有意な正の相関がみられた。つぎに、大学種別、性別によって分けられた5つの下位グループの結果をみることにしよう。表から明らかなように、5つのグループすべてにおいて、保守的態度と革新的態度との間には有意な負の相関が、また保守的態度と大衆社会的態度との間には有意な正の相関が認められた。しかし、革新的態度と大衆社会的態度との間の相関はN男、N女の2グループにおいて有意な負の相関がみられたが、残りの3グループでは有意な相関関係はみられなかった。

3つの態度間の相関関係について下位グループで比較した結果をまとめてみると、つぎのようになる。全般的傾向としては、保守的態度と革新的態度との間および革新的態度と大衆社会的態度との間には負の相関関係が、そして保守的態度と大衆社会的態度との間には正の相関関係が認められるものの、それらの傾向は、N男、N女のいわゆる国立大学グループで顕著であり、A男、S女、H女の3グループは相対的に弱い相関関係が認められたにすぎなかった。

3 社会的態度と社会意識との関連について

ここでは、社会的態度の3つの下位尺度と社会意識の

3つの下位尺度との関連を検討する。両尺度の検討に先立って、社会意識の下位尺度の平均値と尺度間相関をグループ別にみることにする。

(1) 社会意識尺度の平均値と尺度間相関

表8には、グループ別の平均値と標準偏差の結果を、表9にはそれらの平均値の下位検定の結果を示した。表8から明らかなように「自分の感覚や実感の重視」での値が高いことがわかる。グループ別に尺度平均値を比較してみると、「規範意識」は、N男、N女が他の3グループよりも有意に低いことがわかる。つまりN男、N女では他のグループよりも規範意識が弱いといえる。「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」はA男が最も高く、N女、S女、H女よりも有意に高いこと、N男はN女よりも高いこと、さらにS女はH女よりも高いことがわかる。これらの結果からA男は女子の3つのグループよりも身近な事象への関心が高いといえる。さらに「自分の感覚や実感の重視」はN男の値がS女よりも高く、またN男、N女、A男の値がH女よりも高いことが明らかにされた。つまりN男、N女、A男は相対的にS女、H女とくにH女よりも「自分の感覚や実感の重視」の傾向が強いといえる。

つぎに、社会意識の3つの尺度の相関をみてみよう。表10から明らかなように、全体としては、3つの尺度の相関はいずれも有意ではなく、相互に独立した尺度と考えることができる。グループ別にみると、A男において「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」と「自分の感覚や実感の重視」との間に有意な正の相関が、S女において「規範意識」と「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」との間に有意な負の相関が、そして、H女において「規範意識」と「自分の感覚や実感の重視」との間に有意な正の相関がみられた以外は、いずれも有意な正の相関はみられなかった。

大学生の社会的態度と社会意識

表8 社会意識の下位尺度の平均値と標準偏差

	第1尺度		第2尺度		第3尺度	
全体	2.98	(0.40)	2.89	(0.48)	4.00	(0.37)
国立	2.77	(0.40)	2.86	(0.50)	4.05	(0.38)
私立	3.05	(0.39)	2.98	(0.47)	4.00	(0.37)
男性	2.94	(0.43)	3.03	(0.48)	4.03	(0.38)
女性	3.00	(0.37)	2.77	(0.45)	3.97	(0.36)
N男	2.72	(0.44)	2.95	(0.53)	4.07	(0.41)
N女	2.82	(0.34)	2.77	(0.46)	4.03	(0.35)
A男	3.03	(0.40)	3.05	(0.46)	4.01	(0.37)
S女	3.05	(0.38)	2.86	(0.45)	3.97	(0.38)
H女	3.04	(0.34)	2.67	(0.43)	3.93	(0.35)

注) 第1尺度：規範意識， 第2尺度：身近な事象への関心・社会的
事象への無関心， 第3尺度：自分の感覚や実感の重視。
第1，第2，第3尺度の略称は表9，10，11においても同じであ
る。

表9 下位検定の結果（社会意識尺度）

組み合わせ	第1尺度	第2尺度	第3尺度
N男 - N女	* N男 < N女	*** N男 > N女	
N男 - A男	*** N男 < A男		* N男 > S女
N男 - S女	*** N男 < S女		** N男 > H女
N男 - H女	*** N男 < H女		
N女 - A男	*** N女 < A男	*** N女 < A男	
N女 - S女	*** N女 < S女		* N女 > H女
N女 - H女	*** N女 < H女		
A男 - S女		*** A男 > S女	
A男 - H女		*** A男 > H女	* A男 > H女
S女 - H女		*** S女 > H女	

表10 社会意識の下位尺度間相関

	第1尺度 - 第2尺度	第1尺度 - 第3尺度	第2尺度 - 第3尺度
全体	-.02	-.00	.04
男性	.05	-.04	-.07
女性	-.05	.05	-.02
N男	-.01	-.16	-.02
N女	-.02	-.05	-.06
A男	.04	.06	.14*
S女	-.19**	.08	-.01
H女	.05	.17*	-.05

(2) 社会的態度尺度と社会意識尺度との相関

表11にしたがって、尺度間相関をみると、保守的態度は第1尺度(規範意識)との間に有意な正の相関があること、さらに第2尺度(身近な事象への関心・社会的事象への無関心)とも弱い正の相関があること、一方、第3尺度(自分の感覚や実感の重視)との間には有意な負の相関があることがわかる。革新的態度は、第3尺度とは有意な正の相関が、また第1尺度とは有意な負の相関があることがわかる。大衆社会的態度は、第1尺度および第2尺度とは有意な正の相関があり、第3尺度とは弱い負の相関がある。

このように、それぞれの尺度の間には多様な相関のパターンがみられるが、そのなかでも保守的態度は規範意識と、革新的態度は自分の感覚や実感の重視と、そして大衆社会的態度は身近な事象への関心・社会的事象への無関心との間に強い相関関係があることが示された。

つぎに、下位グループ別に尺度間相関をみてみよう。表11から明らかなように、上述の尺度間相関のパターンは、5つの下位グループにおいても同じように認められるが、とくにN男、N女において相関係数が高い傾向にあった。

以上の結果をまとめなおしてみると、「規範意識」は保守的態度との間に強い正の相関があり、大衆社会的態度とも正の相関がある。さらに革新的態度とは負の相関がある。「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」は、大衆社会的態度との間に強い正の相関があり保守的態度とも弱い正の相関がある。一方、「自分の感覚や実感の重視」は革新的態度との間に強い正の相関があるが保守的および大衆社会的態度との間には弱い負の相関がみられる。このように社会意識の3つの下位尺度は従来相互に関係しあっていた保守的態度と大衆社会的態度との関係を考える上で有効な役割をはたしているといえる。

IV. 討 論

1 社会的態度の因子構造と態度間相関

社会的態度の因子構造を検討するために、因子分析が施され、3因子が抽出された。この3つの因子は、それぞれ研究の出発点において設定した枠組みに沿ったものであったが、かつて中学生・高校生を対象として行われた縦断的研究や大学生を対象として行われた横断的研究での因子分析の結果では、4因子が抽出されていた。したがって抽出因子数だけに限ってみれば、調査時期や調査対象によって因子構造に違いがあるといえる。しかし、従来の研究とくに大学生を対象とした研究で得られた4つの因子の内容は、保守的態度、革新的態度、大衆社会的同調傾向、政治的無関心の4つであり、基本的な枠組みを残しながら、2つの態度にまたがった内容だけで新たな1因子を構成したものと考えられる。したがって、態度の構造として、細分化された因子構造を持つか、大まかな構造を持つかという点での違いがあるにしても、基本的には3つの態度枠組みに変化は生じていないといえる。この点について後藤ほか(1979)においても、3因子構造と考えることが適切であると思われる被調査者群と、4因子構造とした方が適切であると思われる群とに分かれることを指摘した。そして、国公立文系男女および理系女子では3因子構造になっているものと考えられた。

因子分析の結果にもとづいて構成された下位尺度について、 α 係数を求めた結果によると、全体の結果は信頼できる尺度が構成されたことを示しているが、大学の種別や大学別にみても、国立の方が私立よりも α 係数が高く、相対的に私立大学の2つの被験者群での α 係数が低くなっている。このことは、3つの態度枠組みが、国立大学の学生にとっては適切なものであっても、すべ

表11 社会的態度と社会意識の各下位尺度間相関

	全体	男性	女性	N 男	N 女	A 男	S 女	H 女
保 守 的×第1尺度	0.71***	0.73***	0.70***	0.74***	0.67***	0.65***	0.65***	0.71***
保 守 的×第2尺度	0.10**	0.12**	0.08	0.08	0.05	0.10	0.05	0.06
保 守 的×第3尺度	-0.10**	-0.15**	-0.06	-0.34***	-0.24**	-0.00	0.04	0.04
革 新 的×第1尺度	-0.30***	-0.32***	-0.28***	-0.43***	-0.27**	-0.18**	-0.19**	-0.22**
革 新 的×第2尺度	-0.05	-0.02	-0.09	-0.08	-0.10	0.04	-0.03	-0.18*
革 新 的×第3尺度	0.52***	0.53***	0.51***	0.65***	0.59***	0.46***	0.47***	0.48***
大衆社会的×第1尺度	0.21***	0.24***	0.20***	0.34***	0.23**	0.05	0.03	0.25**
大衆社会的×第2尺度	0.57***	0.54***	0.48***	0.62***	0.53***	0.50***	0.45***	0.51***
大衆社会的×第3尺度	-0.08*	-0.08	-0.10*	-0.22*	-0.21*	0.03	-0.09	0.02

ての大学生に共通して構造化されているわけではないことを意味している。

態度の構造については、下位尺度間の相互関係からも検討することができるので、この点について、3つの下位尺度間相関のパターンを大学別にみた結果から検討してみよう。保守的態度和革新的態度との間および革新的態度と大衆社会的態度との間には負の相関が、保守的態度和大衆社会的態度との間には正の相関のあることは、本研究の結果においても、従来の結果においても認められている。しかし、大学別にみると、N男、N女ではこの傾向が確認できるが、A男、S女、H女では全般に相関係数の値が低く、とくに革新的態度と大衆社会的態度との間の相関は有意ではなかった。この傾向は、後藤ほか(1979)においても認められ、大学生集団の中でも所属集団によって態度の構造化の内容が異なるのか、あるいは構造化の過程にあるものと思われる。したがって、社会的態度の構造をさらに詳しくみるためには、平行して実施された社会意識の調査結果について大学種別に検討していくことが必要であろう。この点についてつぎに述べることにする。

2 社会的態度と社会意識との関連について

われわれは、現代の青年が社会に対してどのような見方をしているかを、新しい視点から検討するために、社会意識の質問紙を作成してきた。その結果、「規範意識」は保守的態度和との間に強い正の相関があり、大衆社会的態度とも正の相関があること、さらに革新的態度とは負の相関があること、「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」は、大衆社会的態度との間に強い正の相関があり保守的態度和とも弱い正の相関があること、一方、「自分の感覚や実感の重視」は革新的態度との間に強い正の相関があるが保守的および大衆社会的態度との間には弱い負の相関がみられること、があきらかとなった。社会的態度の3つの態度は相互に関係があり、とくに保守的態度和大衆社会的態度との間には有意な正の相関がみとめられている。それに対して、本研究でみられたように社会意識の3つの下位尺度は相互に独立であるから、社会的態度の尺度よりも一層明瞭に青年の社会意識を把握できるものと考えられた。

このことは、項目の作成手続きと関係があると思われる。社会的態度の研究を始めるにあたって設定された、保守的態度和、革新的態度和、大衆社会的態度和という3つの態度の具体的内容は、つぎのとおりである(久世・速水、1974)。

保守的態度和：封建的、権威主義的で、伝統を尊び、義理人情を重んずる。消極的、保守的、国家主義的、家族

制度肯定的であり、男尊女卑的である。

革新的態度和：個人の自由尊重、人間の平等を主張し、合理的・科学的精神をもつ。労働者階級の連帯観と団結を強調する。

大衆社会的態度和：周囲への同調と他人志向性、疎外された結果としての政治的無関心、アノミーの亢進、小市民的態度和を示す。

一方、規範意識とは、家庭や学校、社会における対人関係などにおいて、多くの者によって共有されている伝統的・慣習的な言動についての基準および規則や習慣などに対する意識であり、具体的項目として、先生や親といった目上の人に対する尊重や学校を中心とした社会的ルールの遵守などの内容の項目が含まれていた。また、私生活主義とは、「私」の生活と利益を重視しようとする生活の構えをさしており、操作的には、自分自身や身近な事象への関心、それとは逆に社会的事象への無関心、自分の感覚や実感の重視、自分の欲求と利益の重視などをさしている。このうち、身近な事象への関心・社会的事象への無関心の因子には、自己と他者との関係や社会との関係の持ち方に関する項目が、また自分の感覚や実感の重視の因子には、個人を尊重し、判断や行動の基準を自分自身に求めようとする態度に関わる内容の項目が含まれていた。

このように社会意識の3つの下位尺度では、社会的態度の尺度にみられる「保守-革新」というようなイデオロギーにかかわる定義内容の項目は少なく、むしろ家庭・学校・人生観の領域でのいわば日常生活に密着した項目(久世ほか、1987)からなっている。しかも、これらの3つの下位尺度は、いずれも信頼性の高い尺度が構成されている。さらに平均値についても、とくに自分の感覚や実感の重視での値は4.00となっていることから、これら3つの下位尺度を構成する項目によって新しい視点から現代の青年の社会意識が的確に把握されていると考えられる。

3 大学種別にみた結果について

本研究で得られた結果のうち、大学間比較の結果をまとめてみると、社会的態度の下位尺度の α 係数、平均値、態度間相関、社会的態度の下位尺度と社会意識の下位尺度との相関のいずれについても、国立大学生であるN男、N女と、私立大学生であるA男、S女との間には明らかなちがいが認められた。

全般的に国立大学生の方が私立大学生よりも態度間の関係ははっきりしており、われわれが設定した態度の枠組みに適合しているといえる。こうした傾向は、後藤ほか(1979)においても認められたが、国立大学生と私立

大学生というように所属大学の特性によってちがいがみられることが、なにに起因するのかについては、十分検討できるだけの資料を持ち合わせていない。久世ほか(1986)が、私生活主義と規範意識を被調査者の所属する大学間で比較した結果においても、国立大学よりも私立大学の学生の方が規範意識が強いことを明らかにしている。そしてその理由として、各私立大学が規範受容的な学風を有しており、かつ集まる学生もそのような学風になじみやすい傾向があるためということをあげている。また、入学後に学生がそれぞれの大学の雰囲気の影響されたこともあげている。

本研究における被調査者は、国立大学1校、私立大学2校、公立短期大学1校、の計4校から得られたにすぎない。したがって、国立大学生と私立大学生とのちがいがみられたことから直ちに結論めいたことを述べることに注意を要する。調査対象校を多くするとともに、学生の生活状況に関する要因の分析が必要であろう。吉森(1978)は、家庭環境の要因が保守的態度の形成にどのような影響を及ぼすかを検討している。彼は、家庭環境の変数として、同胞数、出生順位、宗教、父親の年齢、父親の職業、父親との意見の一致、父親の生き方への賛同、母親の年齢、母親との意見の一致、母親の生き方への賛同の10変数を取り上げている。われわれの研究においても、今後家庭要因とくに社会・経済的背景あるいは知的水準、所属学部の内容の特色などを大学間で比較できるような資料の収集が必要である。

文 献

後藤宗理・久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美 1979 大学

生の社会的態度に関する研究 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 26, 37-53.

久世敏雄・浅野敬子・後藤宗理・二宮克美・宮沢秀次・宗方比佐子・大野 久・内山伊知郎 1985 青年期の社会的態度に関する縦断的研究—個人の変化過程の分析— 教育心理学研究, 33, 11-21.

Kuze, T., Goto, M., Ninomiya, K., Asano, K., Miyazawa, S., Munekata, H., Ohno, H., and Uchiyama, I. 1985 A longitudinal study on development of adolescents' social attitudes. *Japanese Psychological Research*, 27, 195-205.

久世敏雄・速水敏彦 1974 中学生・高校生の社会的態度に関する研究(Ⅰ) 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 21, 1-11.

久世敏雄・宗方比佐子・和田 実・後藤宗理・浅野敬子・宮沢秀次・二宮克美・大野 久・内山伊知郎・鄭 曉斎 1986 現代青年の社会意識 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 33, 291-302.

久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美・和田 実・後藤宗理・浅野敬子・宗方比佐子・大野 久・内山伊知郎・鄭 曉斎 1987 現代青年の社会意識に関する研究 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 34, 25-39.

Murakami, T. 1983 Quasi three-mode principal component analysis: A method for assessing the factor change. *Behaviormetrika*, 14, 27-48.

吉森 護 1978 保守主義に関する研究 IV—女子青年における自己の態度と両親の態度との関係の分析を中心として— 広島大学教育学部紀要(第1部) 27号 103-113.

(1987年7月31日 受稿)

ABSTRACT

THE RELATIONSHIP BETWEEN SOCIAL ATTITUDES AND SOCIAL CONSCIOUSNESS AMONG COLLEGE STUDENTS

Toshio KUZE, Motomichi GOTO, Keiko ASANO, Shuji MIYAZAWA, Katsumi NINOMIYA,
Hisashi OHNO, Hisako MUNEKATA, Ichiro UCHIYAMA, Minoru WADA, and Xiao-Qi ZHENG

The present study is aimed both a) at exploring the structure of social attitudes among college students, and b) at examining the relationship between social attitudes and social consciousness. For these purposes, a set of instruments for measuring social attitudes and social consciousness were used. Subjects consisted of 921 college students (437 boys and 484 girls). They were got from 5 student groups: male and female students in national university, male and female students in private university, and female students in city college.

Subjects were asked to respond to the questionnaires which contained the following instruments. (1) Social attitudes questionnaire included 39 statements with a 5-point scale (Kuze and Hayamizu, 1974). (2) Social consciousness questionnaire included 48 statements with a 5-point scale (Kuze, *et al.*, 1987). This instrument produced 3 orthogonal factors that were labeled as “respect for the norms”, “focusing on his/her own life vs. indifferent to the social affairs”, and “emphasis on one’s own sense”.

Based on the total sample, factor analysis was performed for the social attitude questionnaire. Social attitude produced three factors, that is, conservative, radical, and mass-social. These factors were given the same labels as those by Kuze and Hayamizu (1974).

Items contributing to each factor were combined into a composited scale. Reliability estimates calculated based on Cronbach’s alpha produced coefficients with statistically high levels. Then, in order to examine characteristics of scales constructed, they were subject to the correlational analysis for their interrelational patterns. Results of the analysis can be summarized as follows.

[A] Results of social attitudes:

- (1) The mean score of radical scale was the highest, and that of conservative scale was the lowest.
- (2) Comparisons of means among 5 college groups revealed that (a) male and female students in private university tended to be more conservative and mass-social than those in national university, (b) male and female students in national university students tended to be more radical than those in private university.
- (3) Both conservative and mass-social attitudes were found significant negative correlations with radical attitudes. On the other hand, conservative attitude exhibited significant positive correlation with mass-social attitude.

[B] Results of social consciousness:

- (1) Mean of “emphasis on one’s own sense” was the highest.
- (2) Means of “respect for the norms” among male and female students in national university tended to be lower than those in other group. Means of “focusing on his/her own life vs. indifferent to the social affairs” in male students in private university tend to be higher than those in 3 female student groups. And, means of “emphasis on one’s own sense” in male and female national university and male in private university tended to be higher than those in other groups.

(3) The intercorrelations among these scales were not significant.

[C] Results of the interrelationship between social attitudes and social consciousness:

- (1) Both conservative and mass-social attitudes exhibited significant positive correlations with “respect for the norms” and “focusing on his/her own life vs. indifferent to the social affairs”, but negative with “emphasis on one’s own sense”.
- (2) Radical attitude showed significant positive correlation with “emphasis on one’s own sense”, but negative with “respect for the norms”.

In discussion, it was pointed that three scales of social consciousness are effective instrument for exploring social attitudes among contemporary adolescents.